



看護管理学会セミナー

永寿総合病院 統括看護部長
北川 順子

永寿総合病院

- 急性期病床384床、緩和ケア病床16床、計400床
- 26診療科
- 台東区中核病院、地域医療支援病院
- 東京都災害拠点病院、東京都2次救急医療機関

1956年（昭和31年）160床で開院

2002年（平成14年）400床の総合病院



2020年3月 クラスター発生

新型コロナウイルス感染症で

入院患者109名（死亡43名）

職員83名（看護職員60名）

発生

2月

患者さんの自己申告
3名の陽性者が入院

3月18日

患者さんと職員の熱発者が部署を超えて出現
何かが起きていると声が上がっていた

3月20日

保健所に届け出

3月22日（日）

委託業者職員が発熱
コロナウイルス陽性と報告
対策本部立ち上げ

3月25日

全患者全職員の検査開始
検査結果が出るのは3日後、
全員の検査結果が判明する
まで9日以上



3月

- コールセンター
- 情報は掲示
- 感染者が出ると、14日間の自宅待機
- 外来、救急、HCU、OP室などのスタッフが病棟へ配属。

電子カルテの操作、物の場所などもわからない

簡易的なルールを決め対応

- 委託業者の撤退や業務縮小

全職種が協力。誰でもできるルールが必要



メンタルサポートチーム オリーブ

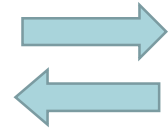
家族が出勤拒否
職員の陰性証明書
預からない
立ち退きの打診
立ち入るところの消毒
家族に出勤や自宅に帰ることを反対された

全体像すら見えない中、問題が知らされると同時に解決策を求められる。



災害時の情報は日頃からの信頼

うまく回っていない



正しい情報が入ってきているのか

遠回りの道案内：

- 正しい情報が偏る
- 声の高いほうばかりが聞こえる
- 根本の解決にならない

災害時、問題を現場の人々と解決していくためには、
人財を知る必要がある
職位が上がるほど日頃の関係作りが
このようなときに活かし活かされる

頑張れ、永寿病院

地元有志一同

負けるな

東上野

We ♥
東上野

がんばれ

永寿病院

言い出しにくいことを「言ってもいい」

1. 陽性病棟でもいい
2. 陰性病棟のみ希望
3. 休みたい
4. 退職したい

- ①受け持ち
- ②清拭・食事介助等身体ケア
- ③清掃・運搬・制作

環境消毒



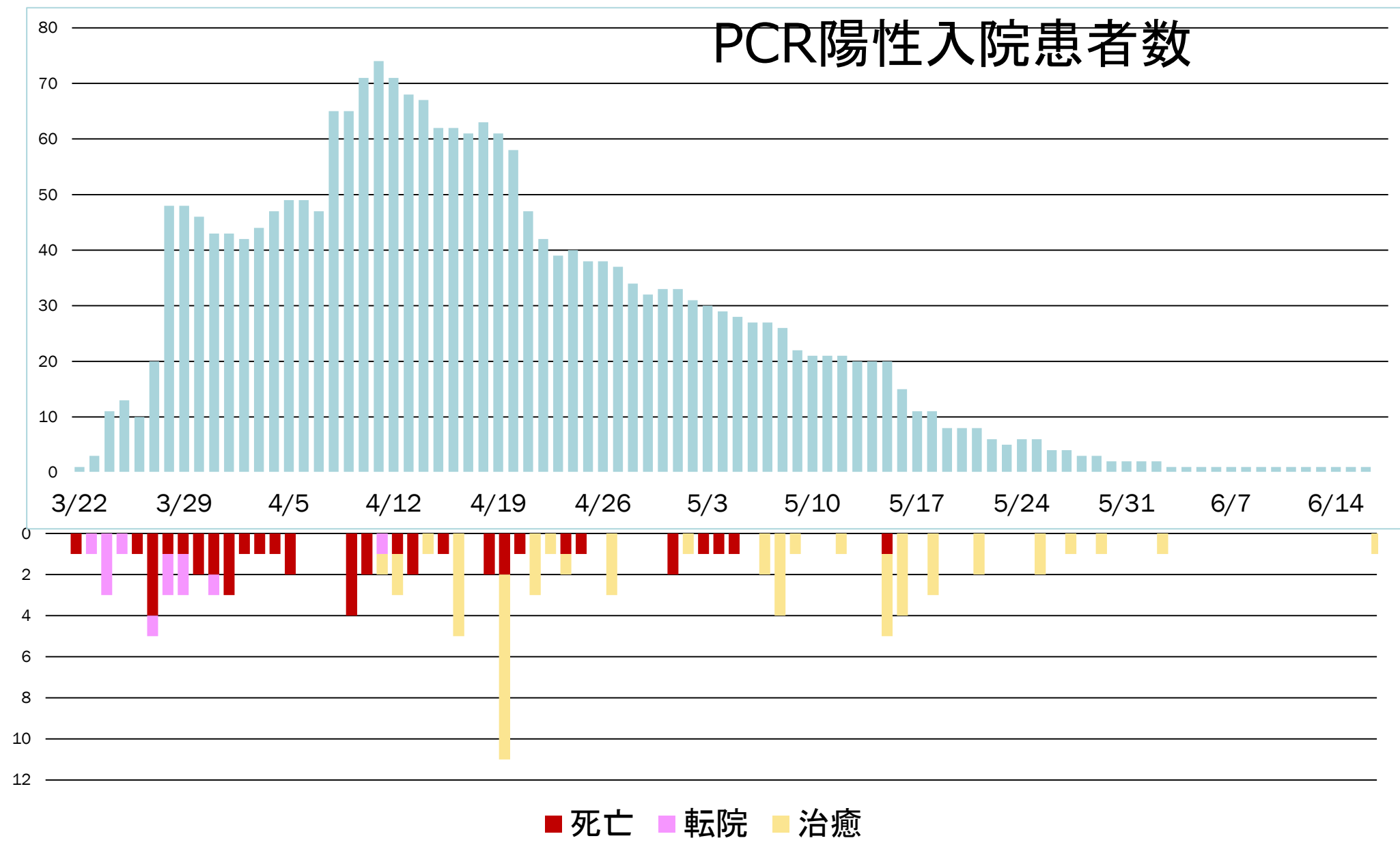
新卒の雇用断念

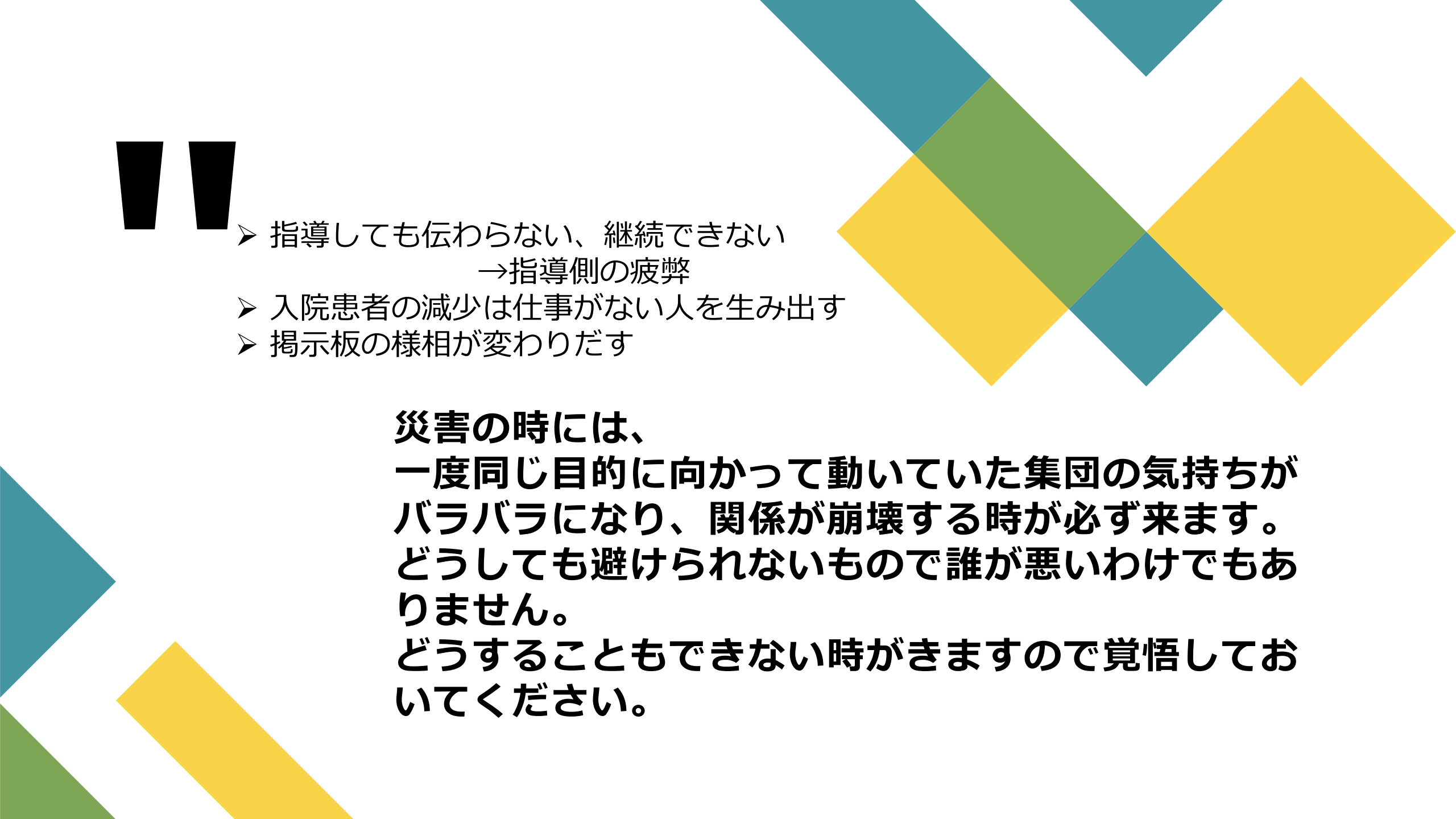
- ◆ 人を育てられる環境ではなくなった
- ◆ 指導者も2週間ごとに部署移動
自信のあることも伝えられる状況になく必死
- ◆ 先が見えないまま、新人にとっての貴重な1年を無駄にしてはいけない

- 全ての新人と面談
- 協力してくれる病院を紹介

人事が長い時間をかけようやく獲得した人を私は悩んだ末に1か月で水の泡にしました。

PCR陽性入院患者数



- 
- Two black trapezoidal shapes pointing right, followed by a list of three items:
- 指導しても伝わらない、継続できない
→指導側の疲弊
 - 入院患者の減少は仕事がない人を生み出す
 - 掲示板の様相が変わりだす

**災害の時には、
一度同じ目的に向かって動いていた集団の気持ち
バラバラになり、関係が崩壊する時が必ず来ます。
どうしても避けられないもので誰が悪いわけでも
ありません。
どうすることもできない時がきますので覚悟してお
いてください。**

他の病院への応援

- ▶ 「気持ちと状況がわかる、私たちだからできることがある。」
- ▶ 明日どうなるのか、誰か、教えて。と思いながら過ごしたあの時。

現場の声を聴き、黙々と役割をこなすことができる看護師が必要

管理職を4名派遣

6月

- 患者さん40人、感染者はゼロ
- 外来再開の許可が下りない
- 生活できない・
やりたい看護ができないから退職
- 危険手当

外来シミュレーション





クラスター発生から 3か月の出来事

当院は陽性者が来ると待ち構えていた病院ではない。

発覚という形で多くの患者さんと家族、職員を巻き込み犠牲者を出したことは消えない。

地元有志からの横断幕が張られていた朝、本当に、まだここにいてもいいのだと思えた。

クラウドファンディングではお会いしたことがない方からの応援が、こんなにも多く、口には出さず見守り続けていた職員の家族も救われた。

当院は人によって救われた病院である。